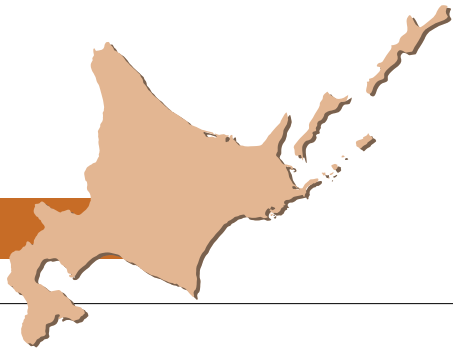
1月の道内景況　情報連絡員レポート

持ち直し傾向に足踏み感

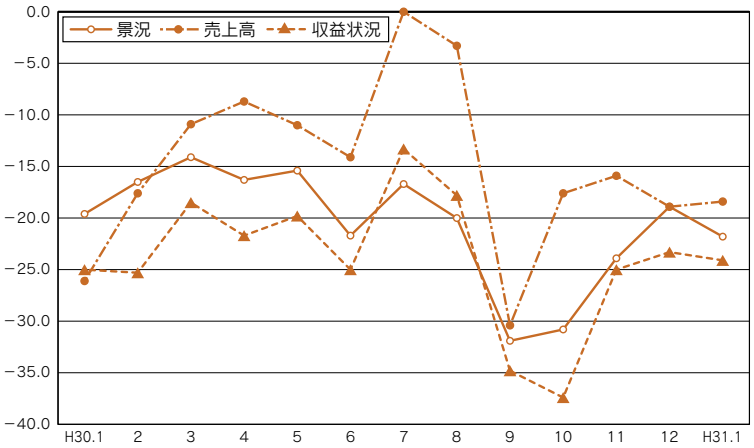


概　況

主要DI値の推移では、「売上高」で若干改善したが、「景況」「収益状況」が悪化し、改善傾向に足踏みが見られた。

業種別の前月比較では、製造業では「販売価格」「資金繰り」「雇用人員」で改善したが、「景況」「売上高」「収益状況」「取引条件」が悪化。非製造業では「景況」「雇用人員」以外の項目で若干改善したが、いずれもマイナス域での推移となった。

主要 DI 値の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	12月	1月	前月比	12月	1月	前月比	12月	1月	前月比
業界の景況	△18.9	△21.8	△3.0 ↘	△21.9	△22.6	△0.7 ↘	△17.2	△21.4	△4.2 ↘
売上高	△18.9	△18.4	0.5 ↗	△18.8	△25.8	△7.1 ↘	△19.0	△14.3	4.7 ↗
収益状況	△23.3	△24.1	△0.8 ↘	△28.1	△32.3	△4.1 ↘	△20.7	△19.6	1.0 ↗
販売価格	1.1	4.6	3.5 ↗	9.4	12.9	3.5 ↗	△3.4	0.0	3.4 ↗
取引条件	△5.6	△5.7	△0.2 ↘	0.0	△6.5	△6.5 ↘	△8.6	△5.4	3.3 ↗
資金繰り	△11.1	△5.7	5.4 ↗	△18.8	△12.9	5.8 ↗	△6.9	△1.8	5.1 ↗
雇用人員	△13.3	△16.1	△2.8 ↘	△12.5	△6.5	6.0 ↗	△13.8	△21.4	△7.6 ↘

（凡例）　30以上　10～29　9～△10　△11～△29　△30以下

天気図の見方　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（D・I値）をもとに作成。その基準は上記のとおりである。

製造業

・12月の山場を越え、一段落の状況。今後気になるのが、昨年カナダ、アラスカの鰊の漁模様が悪く、原料の不足により仕入価格高騰となったため、今年の漁模様に関心が高まるところ。（水産食料品／留萌）
・地域水産関連業種は、昨年はサケ、ホタテ漁などで水揚げ復活の兆しが一部に見えるも総じて収益、事業環境は依然厳しく、おおむね低位に推移している。（水産食料品／網走）
・1月は寒暖の差はあったものの比較的穏やかな天候が続き、様々な行事も滞りなく開催されたようだが、消費マインドが今一つ盛り上がりに欠けた。消費者の低価格志向も変わらずで、スーパー側も売上を作るのに苦労している。（飲料／全道）
・製材市況は、カラマツ、エゾ・トドマツは保合。原木市況は、カラマツ、エゾ・トドマツは保合～強含み。カラマツ原木は、不足感は依然として解消されていない。一部地域では、値上げ基調となっている模様。今後民有林材が出てくるのを待っている。地域によっては年度内の回復は難しいとの見方をしている。エゾ・トドマツ原木は、一部地域での出材が少なく苦慮している模様。民有林材も林道状態が悪く、運材手配に苦慮している模様。原木不足はまだ解消されていない。小径材は未だに不足している。（一般製材／全道）
・原材料の値上げに対して、販売価格の改定をし、非常に厳しい状況。（パルプ・紙・紙加工品製造業／全道）
・1月度の出荷数量、売上高については、路盤用で前年対比増加したが、生コン用と全体で前年対比減少した。（窯業・土石製品製造業／札幌・砕石）
・自動車、鋳鋼品・水道資材・建設機械、農業機械・一般鋳物は変わりない。工作機械、一般鋳物は少し陰りが見えている。地方では人員不足が顕著である。（銑鉄鋳物／全道）
・会員事業所の状況
低船価の建造で協力事業所への請負工事金額も低減され収益増は望めな状況。
造船業界の状況
造船所各社は、2019年は過去に受注した低船価の建造が継続され、また造船鋼材の値上も予想され、2018年以上に厳しい経営が続く見通し。（金属製品／室蘭）
・組合員事業所にいろいろと話を聞くと、金属加工業者では売上は増加しているが、原材料の高騰など原価上昇分を製品に転嫁できず、苦慮している。（金属機械工作／札幌）
・昨年度と比べると、11月以降、全般的に受注量・操業度が落ちている企業が増え、収益が減った企業が多かった。雇用に係る人員を募集しても、なかなか人が来ない状況が続き、操業に支障が出ているとのこと。（金属機械工作／江別）
・年が明け全体的な動きが鈍っているような印象を持つ。今年は改元と消費増税などがあり、今後の市場の動きが大変気になる。（家具／旭川）

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

・1月は前年対比では各商品ともに売上増加との回答が多数を占めたが、景況の回復感は乏しい。季節商品は冬物から春物に移っているが店頭では売れ行きが良くない。
・運賃の上昇がここに来て更に目立つようになっており、物流の効率を高めることに苦心している。卸団地の再整備は順調に進行中。今年12月には新ビルが完成する予定。（各種商品／札幌）
・売上は前年に比べ厳しくなっている。燃料費の高騰などで節約傾向が強くなっているとされており、嗜好品である菓子も例外なくその影響を受けている。（菓子／全道）
・全体的に売上げは芳しくない。その中では呉服、時計貴金属、医療・医薬関連、自動車関連、家電・インターネット利用等が好調であった。季節柄各種スクール関係、高速料金が続伸し、今春の超大型連休の事前予約か旅行関連も高い売上げを維持した。（各種商品／札幌）
・食料品・ドラッグストア等の生活必需品の売上げが堅調で、衣料品の売上げもやや伸び、燃料単価の値上がりによる燃料関係の売上増加で物販は前年を上回った。キャッシングにおいては例月よりも前年比減少幅が少なくなったが、収益では、同業他社との競争激化と加盟店手数料の取引条件低減により悪化している。（各種商品／旭川）
・1月取扱高は、前年比101％の状況。大型量販店は賑わっているが、中心商店街は人通りが少ない状況で苫小牧駅前に光のイルミネーションが始まったが、若者中心にSNS投稿写真にて賑わいが発生している。インバウンドも増加していて、これからの旅行客に期待をしたい。（各種商品／苫小牧）
・道南スルメイカ漁が1月末で終漁し、函館市水産物地方卸売市場の生鮮スルメイカ取扱量は前年比48.3％減の838トンと、統計が残る2005年度以降初めて1000トンを下回り、過去最低からも大きく数字を落とす壊滅的な不漁であった。資源減少に加え、燃料高による漁控えなども低迷に影響を与えた。（各種商品／函館）
・1月中は例年に比べ気温が低かった為、暖房用燃料は前月に比べ需要が増加し全体として前年並みとなり一息ついた感がある。車両用燃料は前月に比べ需要が伸びたものの、降雪量が少なく除排雪車の稼働が減少し、全体として前年を下回る状況となっている。人出不足は依然として解消されず、日曜営業を休止するSSもあり厳しい経営環境が続いている。（燃料小売業／稚内）
・自転車店はオフシーズンだが、春に向けての準備に取り掛かる時期。除雪機を扱っているお店は修理や点検に忙しい。（自転車・自動車／全道）
・売上高対前年同月比5％増加。今月も同様にインスタントコーヒー等の嗜好品の売れ行きが好調で推移した。（野菜・果実／札幌）
・年明けは、例年通り、客数が減少したが、1月末から冬季国体が釧路で開催されたことで、客数も前年に比べ増加傾向にあった。中国の旧正月の影響もあり、外国人の観光客が増えつつあり、来月に期待したい。（鮮魚／釧路）
・1月の販売動向を見ると、一時、寒波、降雪等の影響もあって、灯油需要は結果として横ばい傾向で推移したが、依然、消費者の節約志向を反映した買い控えなどもあり、ガソリン、灯油を含め、末端販売業者にあっては、なかなか値上げに踏み切れず、収益増にまで結びついていないとの声も一層大きくなっている。（燃料／全道）
・1月は生活家電・AV機器（特にTV）暖房機など主力商品は好調。消費税10％をにらんでの大型商品買い替え需要がみられる。（電気機械器具／全道）
・除雪、低温等多少は影響あるようだ。小売りも週によって上下あるとのこと。小売りフェアでの販売単価は多少上昇とのこと。（中古自動車／札幌）
・営業状態はほぼ現状維持。（公衆浴場／全道）
・道内企業も業務の効率化や運用コストの削減のために、自前のサーバーシステムからインターネットを経由して、会計や給与計算、営業管理などをクラウドサービスに移行するケースが増加している。企業のIT部門は社内システムの運用業務から、生産性の改善を推進して人手不足を解消する役割を負うようになってきた。そのため、道内企業は、IT人材の確保が企業業績を左右することから、理系人材の新卒者、技術系の中途採用者の獲得が業種や規模を問わず活発になっている。このことが、道内中小IT企業の技術者の採用難や離職者の増加へとつながり、システム受託開発案件が増加しても、人手不足のために受注できないというスパイラルに陥っているIT企業が増えている。また、離職者が増える原因の一つに、業務量が増加して残業や休日出勤で既存社員が対応するという負荷が増加して余裕がなくなり、離職に至る悪循環が発生しているケースがあるという。（ソフトウェア／全道）
・1月の十勝川温泉宿泊入込数は30,431人　昨年度比　332人減、99％だった。震災後の取組の効果は継続しているものの、道内客の落ち込みが大きく全体を引き下げている。（旅館／音更）

非製造業（建設・運輸業）

・1月の景況は新たに官民とも目立った物件はなく、受注済みの工事施工において竣工物件の仕上げ工事に翻弄している状況も見られるがやや落ち着いている。（電気工事／全道）
・売上についてはほぼ前年同月並みであり、材料仕入れ価格が高止まりしている。採算性については可もなく不可もなく収支トントンと言える程度にある。（左官工事／全道）
・組合員の業況
寒波の影響で凍結による修繕が年明け早々多数舞い込んできた、また、下水道の閉塞も例年になく多発していて、修繕工事があることでなんとか凌いでいる状態。土木事業を兼業している組合員は、除雪作業を行いながらの業務なので、降雪が多くなると人員不足となることがある。
問題点
少雪のため寒波が来ると凍結修繕が増加する。雪が保温効果をもたらすが、その雪を家のまわりから除去することで凍結事故につながっているものと思われる。利便性を求め、雪を取り除くことがビジネスとなっているが、雪を利用することも大切な智恵として継承していきたい。
地域の実情
少雪となってはいるが、冬期スポーツ大会やイベントの開催に影響することなく順調にスケジュールが進行しているようだ。この時期貴重な収入源となることから恵の雪・寒さといえる。（管工事／名寄）
・降雪量が昨年に比べ少なく、除雪関連での売り上げは減少している。一部ダンプは新幹線工事があるので稼働している。（一般貨物自動車運送／小樽）
・馬鈴薯・玉葱ともに12月よりさらに出荷量が減少した。全体的に低水準の出荷状況。一般カーゴについては昨年並み。鉄骨・部材関連が前月同様に好調。域内輸送は流通量は鈍くはあるが昨年並みの状況。（一般貨物自動車運送／石狩）
・売上高は、前年同月比　5.0％減少
乗務員数は、前年同月比　7.4％減少
12月分チケット取扱高は、前年同月比　6.5％増加　（一般乗用旅客／旭川）